

東京女醫學會評議員會

昭和 17 年 11 月 20 日午後 4 時より會議室
に於て東京女醫學會評議員會を開催せり。

出席者左の如し。

| | | | |
|--------|--------|--------|--|
| 吉岡 會長 | 吉岡 副會長 | | |
| 高辻 マサエ | 佐藤 八重 | 佐藤 イクヨ | |
| 池田 隆徳 | 磯田 仙三郎 | 今村 明光 | |
| 石原 亮 | 伊東 俊夫 | 石川 裕治郎 | |
| 西田 敬 | 本多 喜美 | 岡龍 太郎 | |
| 大村 久榮 | 大村 重光 | 吉岡 薫 | |
| 吉成 京子 | 田宮 貞仁 | 田村 一 | |
| 立野 君子 | 堤 辰郎 | 中西 清子 | |
| 内田 辰雄 | 窪 敦子 | 八木 節子 | |
| 丸山 アヤ | 佐藤 清 | 佐伯 重治 | |
| 三神 美和 | 美濃部 たか | 島津 フミヨ | |
| 平野 憲正 | | | |

決議事項

1. 次回總會期日の件
昭和 18 年 10 月 23 日(土) 24 日(日)
2. 次回特別講演擔當者の件
平野憲正教授, 高辻マサエ教授
3. 會費改正の件
昭和 18 年度より會費 6 圓に改正

東京女醫學會第 67 回例會

昭和 17 年 12 月 4 日(金) 午後 6 時
東京女子醫學專門學校臨床講堂

演 題

1. 足壓痕に就て 深澤リツ子
2. 昭和 17 年本所病院に收容せ
る發疹チフス家族隔離者のワ
イルフェリツクス反應及ウイ
ダール反應に就て 福島 睦子
3. 腸チフス菌に關する研究(第一報)
各種メデウム中に於ける腸チ
フス菌の枕元構成 安西 港
丸山 たへ

4. 重曹に就て 西田 敬

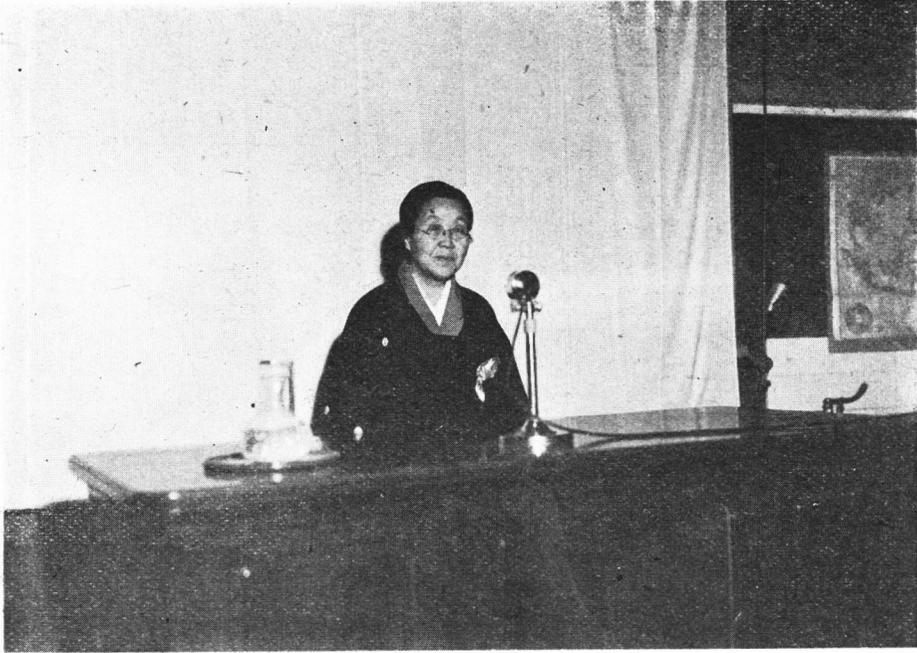
東京女醫學會第 68 回例會

昭和 18 年 1 月 22 日(金) 午後 6 時
東京女子醫學專門學校病院會議室

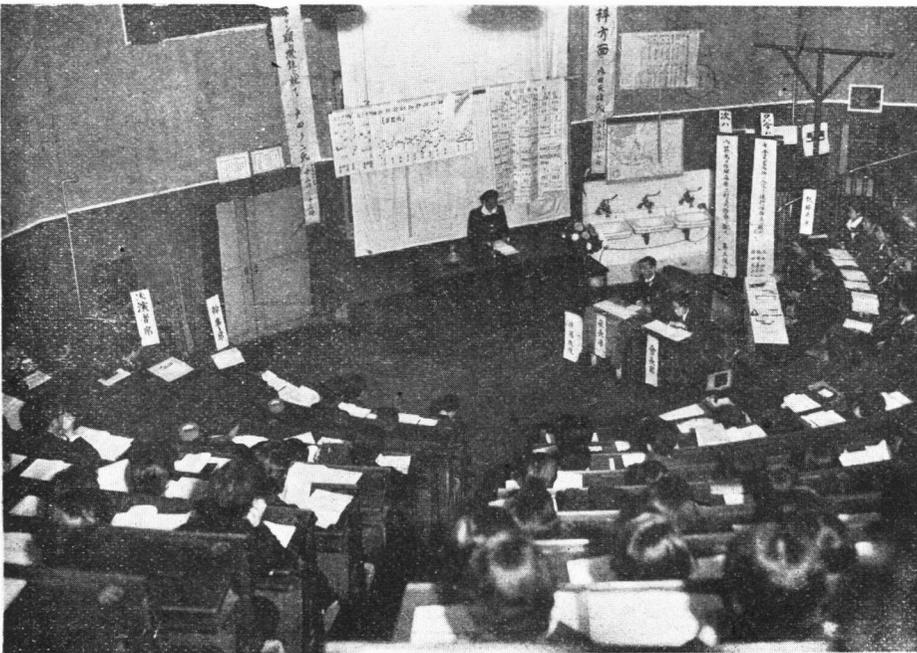
1. 轉子部貫通骨折の二例 酒本 正子
2. 本邦肺結核死亡率に關する一
考察(第五回報告)
一大正九年度體性年齢別特別死亡率
及び訂正死亡率に就て— 諸岡 妙子
3. 汎骨髓癆と誤られたる亞急性
骨髓性白血病の一例 宮越 欽
4. 結核と文明—ゲオルグ・ウルフ
の所說に就て 吉岡 博人

東京女醫學會第九回總會記事

東京女醫學會第9回總會

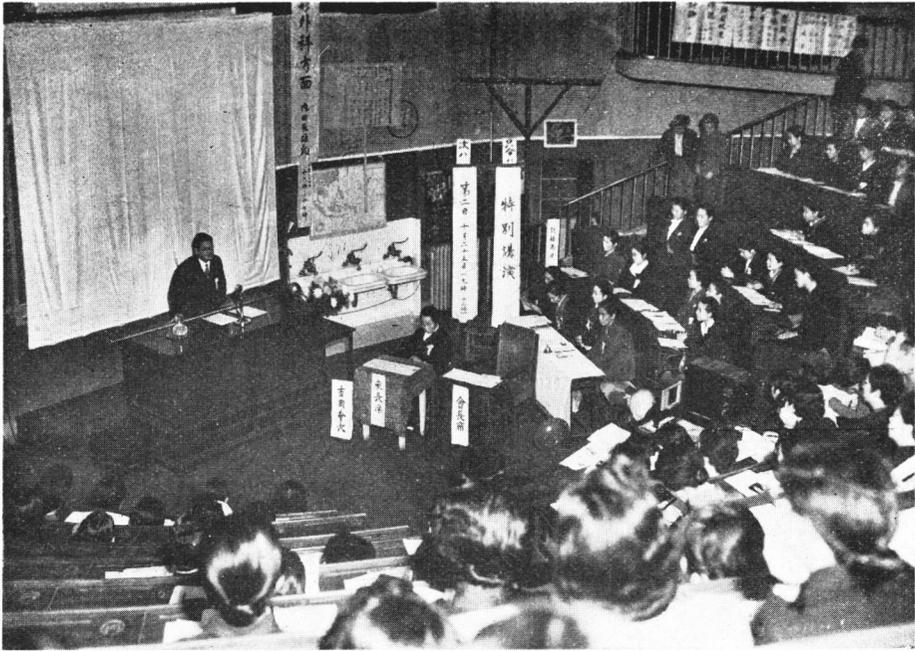


吉岡會長挨拶



會場全景

東京女醫學會第9回總會



內田教授特別講演



戶田教授特別講演

東京女醫學會第9回總會演題目次

特別講演

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1 腰痛の整形外科方面 | 内 田 辰 雄 |
| 2 動物體內に於けるコレステリン類の機能に就て | 戸 田 邦 |

第 1 日 10 月 24 日 (13—17 時)

- | | |
|--|-----------------|
| 1 帶狀疱疹の統計的觀察 | 酒 井 喜 美 |
| 2 毛嚢蟲性癩瘡 | 山 田 櫻 子 |
| 3 妊娠中絶の實驗例 | 奈 倉 早 苗 |
| 4 微毒反應陽性の妊婦，産婦，新産兒に就ての臨床的觀察 | 大 村 ひ さ 彥 |
| 5 新産兒輸血に就て | 宮 地 國 榮 |
| 6 急性黄色肝萎縮症の臨床例に就て | {大石 石 田 和 子 和 |
| 7 今夏當内科に入院せる流行性腦炎の數例に就て | {大鶴 石 岡 和 子 子 子 |
| 8 筋無力性球麻痺の一例及び其の治療に就て | 高 土 俊 子 |
| 9 小腦橋隔に發生せる聽神經鞘腫の一例 | 本 多 喜 美 |
| 10 化學的療法を施行せるクルツプ性肺炎に於ける血液及び尿中クロール量に就て | 池 田 珠 |
| 11 腸チフス加熱高張リンゲル・ワクチンの人體注射成績 | {安丸 西 山 た 港 へ |
| 12 細菌鞭毛の實驗學的研究 (一新鍍銀法に依る) | 市 川 民 慈 子 |
| 13 犬十二指腸蟲卵と犬糞便内細菌の種々藥品に對する抵抗力の比較 | 中 村 絹 子 |
| 14 實驗的空氣栓塞死及失血死經過中に於ける眼底所見，並に死後眼底所見 | 吉 成 京 子 |
| 15 二種の運動單位の比較研究 | 吉 岡 薫 |
| 16 乳癌の多發性骨轉移 | 岩 崎 て る 子 |

第 2 日 10 月 25 日 (9—13 時)

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 17 人副腎髓質内神經細胞の細胞學的研究 | 圓 乘 幸 |
| 18 人睾丸間質組織の細胞學的組織學的研究 | 久 保 田 く ら |

- | | |
|---|---------------------------|
| 19 無鈎條蟲に因る蟲垂炎 | 曾我部 惠美子 |
| 20 乳腺に於ける纖維腺腫に就て | 今田 幸子 |
| 21 新産兒に於ける眼科的觀察 | 小野 澤 敬子 |
| 22 網膜色素變性症に對するトレパチオンの治療成績に就て | 喜井 貞子 |
| 23 樹枝狀を呈せるデフテリー性喉頭, 氣管, 氣管枝義膜の二例 | { 窪 敦 子 黑 澤 和 子 |
| 24 慢性習慣性扁桃腺炎のレ線治療例 | 岩 永 靜 |
| 25 關節ロイマチスミスと扁桃腺摘出 | 北村 ミスキ |
| 26 扁桃腺及びアデノイド手術一年後の調査成績に就て | 窪 敦 子 |
| 27 クロナキシールとミエログラフィー | 鬼頭 阿佐夫 |
| 28 肺癆摘出治療例 | 鬼頭 阿佐夫 |
| 29 先天梅毒の臨床的觀察 | 鈴木 壽和子 |
| 30 流行性腦脊髓膜炎に對するスルフアピリヂンの奏効例 | { 吉澤 喜久代 種 田 子子 |
| 31 吉田氏反應に就て | 山 田 靜 |
| 32 牛込區未就學兒童の集團檢診について——特に兒童を對象とせるマントウ反應のツベルクリン稀釋度の研究—— | { 吉立 岡 博君 人子 立 野 岡 妙 子 |

編 輯 後 記

- ◇ 暫く「編輯後記」を書かなかつたが、讀者に編輯者の考へを傳へ、またそれによる讀者の反響を知るためには、かかる欄も意義があるやうだから、本號から復活することにした。
- ◇ 御承知のやうに、用紙の配給の大削減で、本誌も廣告を殆ど全廢することとなつた。經濟的には痛手であるが、これも國策上やむを得ないことである。かく雑誌が薄くなるにも拘らず、印刷費其他の騰貴のために、またまた會費を値上げしなければならないことは甚だ遺憾である。しかし、社會萬般の現状より推せば、これも已むを得ざることと御了承願ひたい。その代り従來の年4回發行を、今年度からは事情の許す限り年5回にするつもりで居る。それ故1回は特輯號を出して、時局の要請に應じたいと思つて居る。
- ◇ 前述の「特輯號」は「結核特輯」にするつもりで居る。かかる方面にどしどし御投稿願つてこの企劃に御協力頂きたいと思ふ。
- ◇ 會員の研究が盛になるにつれて、論文掲載希望者が殖え、今後は「特別掲載」でないと、仲々順番が廻らないかと思ふ。會員は豫めその點を御承知願ひたい。(博人)

| | | | | | |
|--------------------------------------|--|---|--|--------------------------------------|---|
| <p>昭和十八年二月二十日印刷 昭和十八年二月廿五日發行</p> | <p>發行所 東京女子醫學專門學校 (日本出版文化協會・會員番號三〇〇三) 電牛込(34)七・二六・三三三 院內圖書室</p> | <p>編輯者兼 發行所 東京市牛込區河田町九番地 吉岡博人</p> <p>印刷者 東京市芝區愛宕町二丁目十四番地 渡邊丑之助</p> <p>印刷所 東京市芝區愛宕町二丁目十四番地 愛宕印刷株式會社 (東京一五)電芝(43)三六・四三〇番 東京市神田區淡路町二丁目九番地 日本出版配給株式會社</p> | <p>廣告料 ●普通面金貳拾圓 ●對面金參拾圓 ●表紙第二・三圓 ●四拾圓 ●表紙四圓 ●五拾圓 ●挿廣告菊判二頁貳拾圓 ●布二丁目七八番地ノ七 ●谷區玉川田調布三三七四番地 ●大塚 ●廣告取扱者 ●電話田調布三三七四番</p> | <p>(會費) ●通年會費六圓 ●賣部一圓七拾錢</p> | <p style="text-align: center;">則 雜</p> <p>●會員ハ通常會員(所定ノ會費ヲ納付スルモノ)、學生會員(東京女子醫學專門學校ノ生徒ニシテ所定ノ會費ヲ納付スルモノ)、二種トス</p> <p>●會費拂込ハ、東京四三四二、東京女子醫學專門學校宛ノコト</p> <p>●會費ハ毎年一月中ニ拂込マル、コト。期日迄ニ納付セラレザル方ニ對シテハ振替郵便ニテ申受ク</p> <p>●會費ノ領收證ハ差出サズ、本誌ノ會費領收欄ノ報告ヲ以テ之ニ代フ</p> |
|--------------------------------------|--|---|--|--------------------------------------|---|